TA01RDI リスニング評価

2026.10/25 福山Cable 出原亮

【評価方法】

DAWで比較音源7種を用意 (E.Bass ×2種、Synth Bass、Synth ×2種、Rhodes、A.Gtr)
DAW → Lynx Aurora (n) にて DA → 信号音を ReAmpBox でハイインピーダンス化 → 各DIへインプット
- DI 1: PreAmp (SSL9000 XLogic SuperAnaloge)
- DI 2: PreAmp (SSL9000 XLogic SuperAnaloge)
- パターン1: JDI : TA01RDI
- パターン2: RNDI : TA01RDI

※JDIはTHDが少なく、周波数レンジが広い色付けの少ないDIなので基準値として扱っています

評価①：JDI vs TA01RDI

E.Bass 1、E.Bass 2

JDI (フラット基準として) とTA01RDI両方ともにワイドレンジに変換されている。周波数特性的には全く問題無いと思う。ハイインピーダンスとローインピーダンス両方とも同じ感触。

TA01RDIの方は30Hz〜50Hz辺りに基音が来るフレーズで、基音から倍音部にかけての繋がりがあるように聞こえ、フレーズの腰から腹にかけての動きが見えやすい。JDIも勿論その帯域はあるのですが、JDIは足から胴体に繋がっているイメージ。なので足部分が再生出来ていない環境によっては胴体だけに聞こえてしまう。対してTA01RDIは胴、腰、足と逆三角形に繋がる感じ。キックを下に置く場合に良いと思われる。基音が70〜100Hz辺りに来る音程を織り交ぜた弦飛びフレーズの場合も同様の印象。フレーズは聞きやすい。

Synth Bass

フレーズ内の最低音は25Hz辺りに基音があり、そこから展開するフレーズ。フィルターは少し開き気味で軽くレゾナンスを出した音色で検証。

TA01RDIは先ほどのE.Bass同様のイメージで、ソフトシンセのBassというよりはハード機器のSynth Baの質感のように感じる。

1kHz前後のレゾナンス帯域との一体感がある。

JDIはシネマティックな低域と言いますか、超低域の長さの聞こえ方、描き切り具合が少し勝っています。

JDIはレゾナンス部分やフィルターの動きが顕著にわかる。これは言い方を変えるとJDIが下の帯域と一体感が無く聞こえるとも捉えられますし、TA01RDIに一体感があると捉える事もできます。

JDIが分離がいいとして、TA01RDIが良くも悪くも1つの楽器に聞こえると思います。良し悪しよりも、合わせる他の楽器構成や曲によって使い方が変わると思います。

Synth 1 (160Hz〜10数kHzまでだら下がりの素材)

まず最初に感じたのはアタックの周波数成分の塊が違って聞こえました。

JDI
・良い言い方：パシッと聞こえてくる
・悪い言い方：耳に付く
このフレーズで言うと「シャ シャッ」と「トト トトッ」が同時に鳴っている感じ

TA01RDI
・良い言い方：まとまりがある
・悪い言い方：少し丸め込まれる感じがある
このフレーズで言うと「チャ チャッ」と鳴っている感じ

Synth 2 (70Hz〜5kHzあたりまでのフィルター閉じ気味の素材)

概ね上と同じイメージ。そこプラスリリースがTA01RDI方がタイトに聞こえる。短いとも取れる。リリースがJDI方がルーズに聞こえる。繋がっているとも取れる。

Rhodes

JDIの方はTA01RDIと比べて左手の存在感が薄く聞こえる、TA01RDIの方は左右の手でプレイしている感じになっている。打鍵の瞬間の音を言葉で書くとするなら、JDIは「コ+パ」、TA01RDIは「ト＋ポ」。

A.Gtr

ピックのアタック音が、JDIはパチパチ系、TA01RDIはカチカチ系。和音構成は多少上記の傾向はあっても、そこまで違って聞こえない。

評価②：RNDI vs TA01RDI

Synth Bass
超低域の押し出し感はRNDIの方が強く感じる。しかしこれはほんの僅かな差です。完全に音量を揃えてスタジオモニターやサブ帯域までしっかり調整されているFOHでやっと判る程度かと思います。

Synth 1 (160Hz〜10数kHzまでだら下がりの素材)
RNDIのほうがアタックやサスティーンの切れ際の周波数の塊がある。インパルスへの追従性が高い、特にミッド帯域の追従性が高い感じ。なので和音で鳴った瞬間の厚みが揃って聞こえます。

ただし音色のアプローチとしては過度なインパルス成分を均してやって聞こえやすくする場合もあるので、この特徴は一概に優劣には繋がらないとは思いますが。

この結果を受けて、もし現場にRNDIとTA01RDIの両方があれば、SynthならRNDI、ドラムマシンやAGなら TA01RDIを選ぶと思います。（とても微細な差なので本番で入れ替わっていても判る自信はありません…）

Synth 2 (70Hz〜5kHzあたりまでのフィルター閉じ気味の素材)
ほぼ、同じに聞こえます。強いて言えば上と同じく、和音の切れ目の瞬間のリリースの塊がRNDIのほうが、ホンの少しまとまって聞こえます。

Rhodes
この音は結構違って聞こえます。和音としての結びつきはRNDIのほうが強く感じます。そのために音量も若干あるように聞こえてます。（サスティーン部分がRNDIが持ち上がって聞こえている）

逆をいうとTA01RDIに比べるとRNDIのほうが抑揚が少し薄い感じに聞こえる。演奏のダイナミクスはTA01RDIのほうがある。

A.Gtr
TA01RDIの方が高域のインパルス成分が少し抑えられて聞こえます。RNDIのほうが少し「キャリッ」に近い感じ、TA01RDIが「カリッ」に近い感じ。

RNDIのローミッドのコード感が少し飽和している ＝ 厚みがあるとも言える。TA01RDIのローミッドは音程の棲み分けが出来ている ＝ スッキリしているとも言える。

総括 & その他気付いた点

総じてインパルスへの追従は JDI → RNDI → TA01RDI、中低域の盛っている感じは JDI → TA01RDI → RNDI という印象です。

正確に書くと、
インパルスへの追従：JDI →→→→→ RNDI → TA01RDI
中低域の倍音：JDI →→→→→ TA01RDI → RNDI
になる位、TA01RDIとRNDIは似たような方向性を持っているように感じます。

その他気付いた点
・本体から入力音が漏れている (DIの中身が鳴っている)
・ミニスイッチの質感が気持ちいい (RNDIより好きです)
・ミニスイッチが下側デフォルトなので意図しないスイッチの誤操作を避けられる (RNDI同様)
・白色LEDが少し眩しい
・ゴム足がラックの金属部分を乗り越えられる高さで良さそう (ARMORとかのロゴプレートをまたいで置ける)

今回製品評価のお話を頂いた際、特に気をつけたのは、自分の聞いた感覚での話に留めず、皆さまに文字でも音の判断をして頂けるよう、出来るだけ客観的に書き記してみました。
最後にあえて、感覚的に寄った表現を用いるとTA01RDIは「音楽的、楽器的なDI」だなと感じています。
このように書くと、色付けがあって個性があって・・・と思われがちですが、その様な濃い味付けで特定ジャンルを選ぶということではありません。
音響特性的に十分にオールマイティーな特性でありつつ、ほんの少しだけまとめる手助けをしてくれる。
「ちょっとだけパッケージしとくけど、ここから先の音楽的なアプローチは弾き手とエンジニアでしっかりよろしくね！」
そんな言葉を投げかけられている様な気持ちになりました。
DI探しの旅に出ている方、是非候補に入れてみてはいかがでしょうか？